

学校番号				
2	7	5	0	9

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 7 年 3 月 10 日

札幌市立 新陵小学校

1 今年度の重点目標

笑顔あふれる新陵小学校 子どもも職員も「自分は大切にされている」と実感できる学校

2 今年度の経営方針

■たぐましい子…健全な身体を鍛え、強靱な意志を育てる ■考える子…創造的な知性を養い、正しい判断力を育てる ■心豊かな子…豊かな情操を陶冶し、実践的社会的性を育てる

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す子ども像	たぐましい子 考える子 心豊かな子	・子どもは学校に居場所があるか。 ・子どもは進んで学習に取り組む、自信をもって表現しているか。 ・子どもは、挨拶や感謝の言葉を大切にしながら豊かな人間関係づくりを進めているか。	B	学習では「進んで学習に取り組む」は成果が見られたが「自信をもって表現する」が課題。学び合いで「分かった！できた！」を実感できるよう授業改善を図る。また、行事やあいさつ運動、道徳教育などで、相互承認の感度を高め、よい人間関係づくりを進める。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		・目指す子ども像の具現化に向け、具体的な方策を講じ、着実に推進されていると感じた。子どもたちの姿にその成果は表れていると思うが、課題も適格に把握されており、適切な自己評価であると考える。				

■■■■ Iーさ C小ば う 活 用 し た 一 た 教 学 教 育 び 育 ー の 推 進 ス （ メ 情 校 の 報 種 活 教 間 用 育 連 携 ）	調和知のと徳れた体育の育ち	学が力の育成	学が意欲の向上	子どもは新たな課題に興味や関心をもち、進んで考えたり工夫したりしているか。	B	「新しく学んだこと、他の学習や生活の場面で使おうとしている」と回答した児童が増えた。次年度はどの子にも「分かる。できる。楽しい。」と思える授業を提供し、課題探究的な学習を推進していく。	A	A
		豊かな心の育成	豊かな感性と社会性を育む教育の推進	子どもはありのままを認められ、よいところを褒められているか。	A	アンケートで「自分によいところがある」「友達のよいところを見付けようとする」と回答した児童が増えた。次年度は挨拶・言葉遣いに重点を置き、温かい言葉で他者とつながる機会を多く創出していく。	A	A
		健やかな体の育成	心身ともに健康で安全な生活の実現	子どもは、俊敏性、柔軟性の向上を図る運動機会を受ける環境にあるか。	A	体力テストの結果や日常の観察から、各運動領域の高まりは感じた。次年度は縄跳び、鉄棒、マットや跳び箱運動等に主体的に取り組むことのできる活動を設定していく。	A	A
	学校関係者評価委員会による意見			・「知・徳・体の調和のとれた育ち」を目指して教育活動を推進していくために、それぞれの力を育成する担当分掌を組織し、それぞれ担当する力を育成するまでに主体的に推進している様子が伺え、学校組織としての確にに取り組んでいると感じた。				
	札幌らしい特色ある学校教育	小中一貫した教育の推進	子どもは、9年間の育ちを意識した教育を受ける環境にあるか。	A	今年度は小中教員合同による研修を昨年度よりも拡大して行うことができた。次年度も同様に小中の交流を推進することで、小中一貫した指導ができるようにしていく。	A	A	
	子どもの発達への支援	不登校支援 通常の学級に在籍する特別の支援を必要とする子どもへの支援	子どもは、個々の教育的ニーズに応じた学びの支援を受けているか。	A	個別のケース会議を増やしたり、リソースルームを活用したりすることで、子どもの個別支援が進んだと考える。次年度も同様に支援体制を整える。SCやSSWなど外部関係機関との連携も積極的に活用する。	A	A	
	信頼される学校の創造	子ども1人1人が自分 は大切にされている と実感できる学校づくり	子どもは、家庭学習に意欲的に取り組んでいるか。	B	家庭学習を通して、どの子でも学習計画のもとに見通しをもって学習する力を身に付けるために「プラス学習カード」を活用して、毎月の学習状況を子ども自身が振り返り、適切に自己調整する力を育てる。	A	A	
	教科等の枠組みを越えた教育	人間尊重の教育	子どもは、互いを認め合い、励ましあったり助け合ったりしているか。	A	行事や道徳教育などを通して互いのよいところを見付け、認めあう姿が見られた。次年度は学級・学年・異学年で互いのよさを認め合える場を設けていく。	A	A	
	学校関係者評価委員会による意見			・「小中一貫した教育」の推進に関しては、パートナー校同士の「連携・交流」は着実に推進できていると考える。次年度以降は、最も重要な視点である「9年間の系統性・連続性のある教育」の実現を目指していければよいと考える。（例：日常の授業における「個別最適な学び」の事例研修、ICT教育や豊かな心育成の系統だった指標の構築、「走り方教室」の推進） ・学習の数をこなすのではなく、「学び方」を学ぶことが今の世代の子どもにとって必要に感じる。 ・児童の下校時の様子（解放感）を見て、校内でのルールと下校後のルールに変わりがないことにかかわる指導を、よりお願いしたい。				

学校独自に 設定する分野		働き方改革		A	学期初めの1週間を5時間授業にししたり、電話を転送する時刻を繰り上げたりすることで、授業の準備にかけ時間を確保した。次年度は、15分間の朝学習を授業時間にしたり、「60分授業」を週2日設けたりすることで、基本的に6時間授業を廃止。 教員はこの時間を活用し、毎日の授業準備や自己研鑽を充実させ、日々の教育活動の質の向上を図っていく。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		・「時間外勤務時間の縮減」の具体的な方策として、日課を大幅に変更して放課後時間を確保するなど、児童・職員の両者にとってプラスとなる改革が確実に推進されていると感じた。					